

会報
第120号



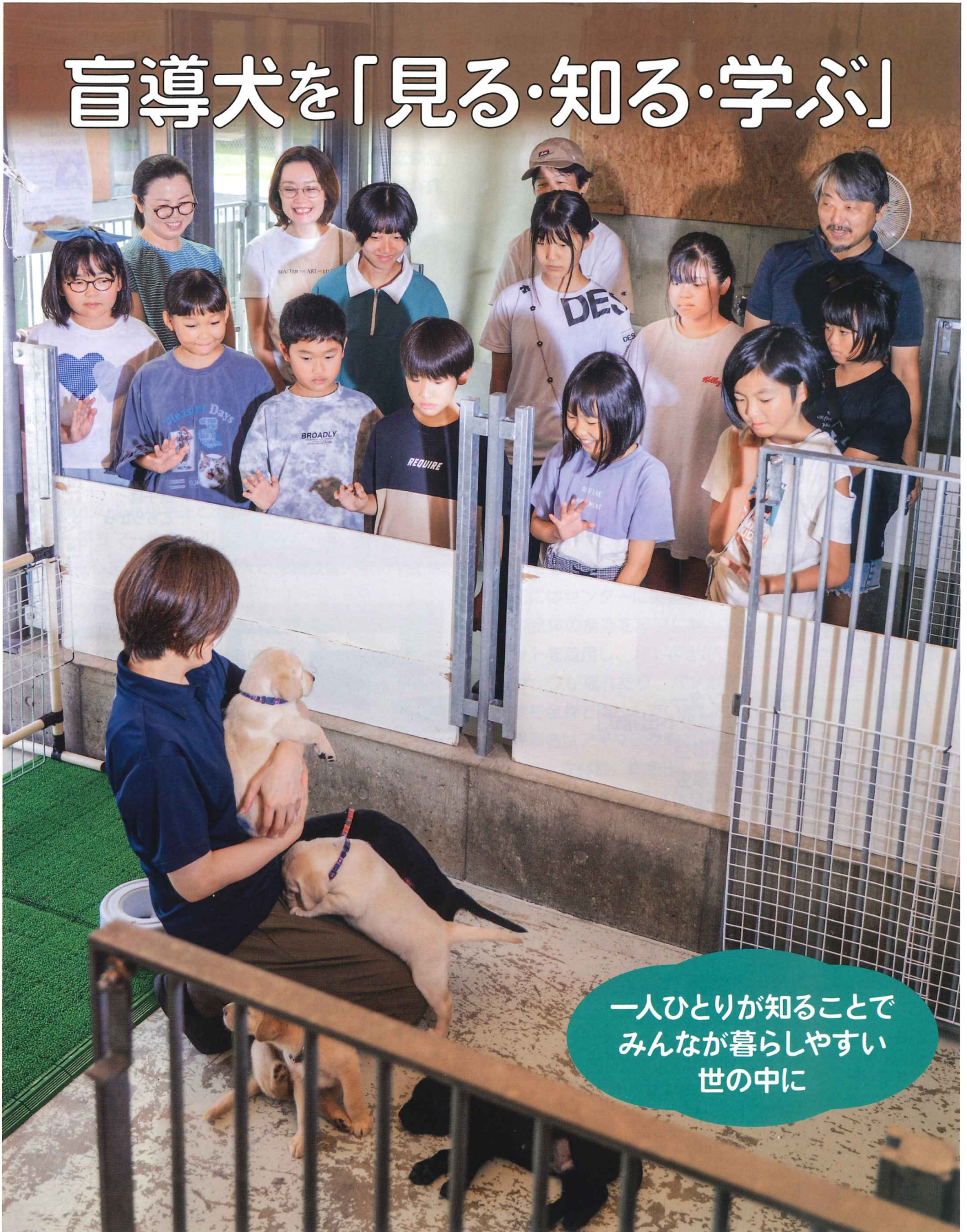
みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 金高 雅仁

223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>

盲導犬を「見る・知る・学ぶ」



一人ひとりが知ること
みんなが暮らしやすい
世の中に

8月に富士ハーネスで体験イベント「うえるか〜ムDay！」を開催。写真は、盲導犬の一生を学んだあと館内を特別ツアーで巡るプログラムのひとコマです。日常生活では出会う機会のない生後1〜2か月の子犬がすぐ目の前に！子供たちは神妙な表情で職員の話に聞き入っていました。詳細は4ページへ

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

盲導犬ユーザーと支援者が心を通わせた 仙台訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」

夏の到来を告げる晴天に恵まれた、7月3日。仙台駅近くのホテルを会場に、仙台訓練センターの「盲導犬新ユニット出発式」を開催しました。2024年度に新たな盲導犬と歩き始めた4ユニットと、来賓や支援者が参加し、晴れやかな雰囲気の中、式典が行われました。

ユーザーのスピーチでは、「だんだんと気が合うようになり、楽しくやっています」「喜怒哀楽すべてをこの子と感じている」など、楽しい毎日の様子が伺えるコメントが。「毎朝4時に起き、1時間半歩いてラジオ体操に行くのが日課です」と、盲導犬との充実した生活を報告する場面もありました。

来賓の中には、長年、協会の「盲導犬学校キャラバン」の支援を通じて、盲導犬の普及推進活動に携わって

きた団体関係者も。また、「実は、家族に盲導犬ユーザーがいて……」と話す方もあり、会場は驚きと温かな空気に包まれました。

「他県の盲導犬ユーザーと知り合えてうれしかった」「盲導犬を支援してくれる方々の温かさを感じた」などの声も聞かれ、さまざまな心の交流が生まれた出発式。この場に集まった皆で新ユニットの門出を祝うとともに、「より多くの人に盲導犬のことを知ってもらえたら」という思いを一つにしました。



宮城県内のほか、新潟県、福島県から集まったユーザー。式典での動きなどを事前にリハーサルして本番に臨み、約60人の支援者らが晴れの舞台を見守りました

式典の様子は
こちらから



日本盲導犬協会の歩み

- 7月3日 仙台訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」
- 7月17日 第4回常任理事会
- 8月20日 第5回常任理事会
- 9月12日 第6回常任理事会

8月29～31日 東京都千代田区で開催された「視覚障害リハビリテーション研究発表大会」で協会職員がポスターでの発表を実施、協会のブースも出展



8月30日 仙台市内で開催された東北東急会主催の第23回「とくきゅう花と社と愛の都づくり in SENDAI」でデモンストレーションを実施



各センター活動報告(7月～9月)

(2025年9月30日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター	
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	0回	0回	1回	0回
	パピーレクチャー	25回	7回	7回	0回
	パピーウォーキング修了式	1回	1回	1回	1回
	ユーザーフォローアップ	38回	26回	17回	17回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	6回	7回	8回	1回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー		3回		
	短期リハビリテーション	0回	1回	0回	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	172回(249人)	167回(305人)	48回(71人)	25回(18人)
	受け入れセミナー	2回	1回	10回	3回
普及推進活動	小・中学生向け実演	1回	7回	11回	15回
	一般向け実演・贈呈式・募金活動等	15回	10回	3回	15回

第16期盲導犬パピープロジェクト 育成期間を終え、修了式を開催

7月7日、島根あさひ社会復帰促進センターにて、第16期盲導犬パピープロジェクトの修了式が開催されました。約8か月の間、訓練生(受刑者)がパピーの育成に取り組んできた活動の節目として、3頭のパピーが協会へ引き渡されました。

プロジェクト開始当初、訓練生たちは、責任感とプレッシャーから緊張した様子を見せていました。しかし協会職員の、「成功した時はしっかり褒めてあげてください」というアドバイスのもと排泄などの日々の世話に取り組みながら、パピーとの信頼関係を築いていきました。

1頭のパピーを5、6人の班で担当しますが、今期は訓練生全員が協力し連携を図ることで、「13人全員で3頭を育てた」という意識が芽生え、班を越えた団結が生まれました。プログラム期間中には、職員が訓練生に対し目の見えない人・見えにくい人の生活や盲導犬の役割についてレクチャーを

実施。「福祉に興味があった」との声も聞かれ、理解と関心が深まりました。

修了式では、「無事にパピーを返せてよかった」と安堵する訓練生たちに、達成感に満ちた笑顔が広がっていました。引き渡しを受けた協会の訓練センターでは現在、プロジェクトを卒業した3頭の訓練が始まっています。



修了式後に訓練生たちはパピーに「訓練も楽しく頑張るんだよ」など思い思いの言葉をかけ、思い出話に花を咲かせました

体験と交流を通じて成長した3日間 第20回「ワン!ぱくっ子サマースクール」開催

視覚障害のある小学生とその家族が参加する「ワン!ぱくっ子サマースクール」を8月2～4日、仙台訓練センターで開催しました。7家族15人と宮城教育大学の学生ボ

ランティア11人が参加し、ゲームやカヤック、花火、白杖歩行体験などを行いました。

中でも、みんなが楽しみにしていたのはカヤック体験。前日にはセンターに実物のカヤック3台を運び込み、座る場所や全体の構造を実際に触って確認しました。ライフジャケットを着用し、パドルを持って漕ぎ方の練習も。当日は、カヤックが揺れたり、パドルを操って水の上を進んでいく感覚を全身で楽しんでいました。

保護者はアイマスクやゴーグルを使い、子供と同じ「見えにくさ」を体験。声を出して反応することの大切さや、日常生活での工夫など気付きがありました。また、普段とは違うことに挑戦する子供たちの姿や、子供たち同士で身支度や入浴をする姿を見て、成長を感じる機会となりました。

子供たちからは、「初めて会った友達とも仲よくなった」「お互いの学校について話せて楽しかった」といった感想が聞かれ、皆で3日間を存分に楽しみました。

家族みんなで参加できることをもっと知ってもらい、より充実したイベントへと発展させていきます。



ゲームでは、一人ひとりの得点をピニールテープの長さに換算。各チームでそのテープをつなぎ合わせ、合計の長さを比べて勝敗を決めました

メディア掲載件数

テレビ・ラジオ	25回
新聞	32回
WEB	121回
その他(雑誌など)	16回

主な放送・掲載

- 7月3日 RSK山陽放送他TV3件、新聞1紙、WEB9件 岡山西LC主催により岡山市立芳野小学校で行われた「盲導犬学校キャラバン」を紹介
- 7月8・9日 山陰中央新報他新聞2紙 島根あさひ社会復帰促進センターで開催した第16期盲導犬パピープロジェクト修了式の模様を掲載
- 7月9日 静岡エフエム放送MIX モーニングラジヲ「SUZUKI MASTER TALK」に協会の渋谷訓練士が「盲導犬マスター」として出演
- 7月19日 朝日新聞 書評委員19人の「夏に読みたい3点」に、協会が監修した書籍「盲導犬百科」全3巻(ポプラ社、2025年)が掲載
- 7月23日 東奥日報 仙台訓練センターがJR青森駅で実施した「安全な鉄道利用講習会」に県内5人の視覚障害者が参加、その模様を紹介
- 7月24日 河北新報 仙台訓練センター主催の盲導犬新ユニット出発式に6組のユーザーと盲導犬が参加。それぞれが語った思いを紹介
- 8月11・15・20日 静岡新聞他新聞2紙、WEB1件 富士ハーネスで開催したイベントでアーティストの岩橋玄樹さんが1日センター長を務めたこと掲載
- 8月18・25日・9月1・8日 読売新聞他WEB4件 協会の繁殖引退犬グアンの飼育ボランティアで料理研究家の小林まさみさん、その活動を4回掲載
- 8月30日 ATV青森テレビ他WEB1件 青森県八戸市の盲導犬学校で実施した盲導犬の体験学習会で、協会職員が講師を務めたことを紹介

*協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

子供も大人も、視覚障害がある人もない人も 富士ハーネスで楽しく学んだ2日間

日本盲導犬総合センター(盲導犬の里 富士ハーネス)で、8月9日、10日の2日間、夏特別イベント「富士ハーネス うえるカ〜ムDay!〜夏だ!盲導犬をもっと知ろう〜」を開催しました。盲導犬や視覚障害について「見て・知って・学ぶ」をテーマにしたイベントです。幅広い年代を対象に、子供の自由研究の題材になるような体験や、株式会社タイムチケットの協力でアーティスト岩橋玄樹さんをゲストに迎えたプログラムを用意しました。

初日の盲導犬ユーザー体験では、参加者がユーザーの生の声を聞き、アイマスクを着けてサポートを受けながら、音声機能付きの計量器で犬のフードを測ったり、自動販売機を利

用したりしました。参加者は、日々の生活の中にもさまざまな工夫やサポートの方法があることを知りました。

そのほか、視覚障害当事者の協会職員によるiPhone活用法の紹介や、動物模型を使った「さわれる動物園」など、楽しく学べる企画で会場は大いににぎわいました。

翌日は、岩橋さんが1日センター長としてさまざまなプログラムに参加。盲導犬ユーザーとの対談では「視覚障害に対するイメージが変わった」と話しました。

2日間の来場者は1,000人を超え、多くの方が見て、知って、学ぶ良い機会となりました。

⇒1日センター長を務めた岩橋さん(中央)と盲導犬ユーザーの対談の様子。見え方や日常生活について聞きました↓プログラムの合間には子供たちからユーザーへ質問が飛び交い、盲導犬との生活や飲食店などでの受け入れについて知る機会となりました



JR青森駅で視覚障害者へ向けた講習会を開催 地域の歩行訓練士と連携し安全な鉄道利用を支える

7月11日にJR青森駅で「見えない・見えにくい方の安全な鉄道利用のための歩行講習会」を開催しました。この講習会は、仙台訓練センターが東日本旅客鉄道株式会社

の協力を得て行っているもので、2018年のJR仙台駅を皮切りに東北各地の駅で実施し、今回で10回目。コロナ禍後の2023年から開催回数を増やし、今年は地域で活躍する白杖の歩行訓練士を指導者に迎えての実施となりました。

当日は、視覚障害者5人が参加し、協会職員含め3人の歩行訓練士と駅職員が立ち会う中で実施。音声案内付き券売機の使用法や改札からホームまでの移動、ホームでの電車の乗降練習を行い、参加者からは「周りの目を気にせず触って確認ができ、不安が減った」「電車内でのトイレの確認ができてよかった」「自己流だった駅での歩行を見直すきっかけになった」など前向きな感想が寄せられました。また、駅の利用に関してさまざまな質問も挙がり、視覚障害者のニーズや課題を駅職員に理解してもらうことにつながりました。

今後も、地域の歩行訓練士や当事者団体などと連携して講習会を展開していくとともに、メディア発信も強化して、より多くの視覚障害者に情報と支援が届くよう活動を続けていきます。



←停車中の車両を使って、ドア付近の構造を確認して乗降を体験できました。協会職員が見守りながら、適切な指導を行います↓構内を歩く前に、手作りの模型を使ってホームの形式を説明。駅のさまざまな構造を理解したうえで、より安全に歩くことを目指しました



繁殖家の協力を求めてイギリスを訪問 信頼から生まれたネットワークをさらに広げる

6月26～28日に協会の職員3人がイギリスを訪問しました。盲導犬の繁殖犬に適した雄犬の凍結精液を提供してくれる繁殖家に会うのが目的です。繁殖コンサルタントとして協会を支えるボブ・スティールさんとメリー・ニールさんの協力によって、計9人の繁殖家に会うことができました。

2021年のイギリス訪問以来、ボブさん、メリーさんとは

定期的にコミュニケーションを取り、協会事業や繁殖ネットワークの理想のあり方を共有しました。さらに凍結精液を扱う技術を向上させ、出産の成功事例を積み上げて信頼を築いてきました。

イギリス北西部の街ボルトンを出発して、2件の繁殖家を訪問。自分の犬を連れてわざわざホテルまで会いに来てくれる繁殖家もいました。北東部のウェストオークランドでは、メリーさんの計らいによって6人の繁殖家が集合。それぞれ自慢の犬を連れ、すばらしさを熱く語ってくれました。協会職員の話に熱心に聞き入り、最後は凍結精液の提供を約束してくれました。

ボブさん、メリーさんをはじめ、協力してくださる繁殖家の信頼に応えられるよう、誠実に向き合いながら、盲導犬の繁殖ネットワークを広げていきます。



↑ウェストオークランドの繁殖家のお宅に集まったみなさんと、メリーさん(右から3番目)、ボブさん(右から4番目)



↑広大な庭でそれぞれ自慢のゴールデン・レトリバーを紹介。繁殖家としての自負と犬たちへの愛に溢れていました

広島電鉄広島駅がオープン 視覚障害者のための駅体験会にユーザーが参加

広島市内を走る路面電車の駅前大橋ルートが8月3日に開通しました。これに伴い、JR広島駅ビル2階に新たに広島電鉄広島駅がオープン。駅周辺の景観や利便性が大きく変化する中、視覚障害者が安心して利用できる環境を整えるため、広島電鉄は7月24日に体験会を実施、盲導犬ユーザー2人と協会の職員が参加しました。

協会は、広島電鉄と連携して社員研修を行うなど、視覚障害者の安全な駅利用へ向けた取り組みに協力しています。当日は、ユーザーが路面電車のホームを歩いて動線を確認し、電車の乗り降りも体験しました。路線別のホームの位置や、発着時に左右どちらの扉を利用するのかといった具体的な質問を、ユーザーから駅職員に行ったほか、点字ブロックの配置についても提案をしました。

ユーザーからは「実際に利用する際のイメージが湧いた」「ホームが広がって、歩きやすく、転落の不安もなくなった」「体験会を覚えてくれること自体がうれしい」と前

向きな声が寄せられました。広島電鉄は「視覚障害者の方の声は非常に参考になる。よりいっそうの安全を目指し、今後の研修にも活かしていきたい」と意欲を語りました。

→広島電鉄広島駅を歩くユーザーと協会職員。ホームの高さや乗り場の位置など、じっくり確認することができました



↑ユーザーからの質問に対応する駅職員。「視覚障害当事者の生の声を聞く貴重な場となりました」



新たな学びと連携の広がり

2025 IGDFカンファレンス

イギリスで開催

2025年6月19～22日、イギリスのウェスト・ミッドランズ州コヴェントリー市のウォーリック大学にて国際盲導犬連盟 (IGDF*) カンファレンスが開催されました。IGDF

に加盟する29の国と地域、79団体、339人が参加し、盲導犬育成に関する研究成果を発表。協会からは10人が参加して、3題の発表を行いました。カンファレンス後には、訓練士を対象とした初のワークショップが実施され、若手訓練士らも参加しました。

※国際盲導犬連盟 (IGDF = International Guide Dog Federation) とは、視覚障害のある人、見えにくい人々の独立した歩行手段としての盲導犬について、その提供を推進する加盟団体の取り組みを支援することを目的に、1989年に設立された団体

パートナーシップの終わり～ 2つの盲導犬団体から見た犬と人の要因

発表者: 訓練部 青木舞子、イギリス盲導犬協会職員

協会と英国盲導犬協会 (GDUK) が盲導犬の引退に関して共同発表を行いました。協会は、盲導犬歩行をやめたユーザーについて、年齢やその理由を示し、高齢ユーザーへの対応事例を紹介しました。GDUKからは、盲導犬の引退年齢や健康課題、引退におけるユーザーへの心理的影響について報告。



協会が、引退後も新たな犬をスムーズに提供できる体制を整えていることや、盲導犬歩行をやめる方へも丁寧な関わりをしていることを伝えると、驚きの声が上がりました。

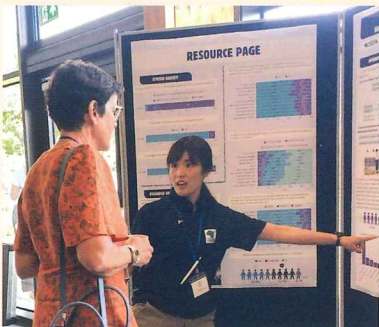
←共同発表した青木訓練士 (左) と GDUKの職員たち

「日本での盲導犬受け入れに関する実態」日本の法律、拒否の実態、市民と従業員の意識調査

発表者: 広報・コミュニケーション部 奥澤優花

日本における盲導犬受け入れの現状や、協会が実施した社会意識調査の結果を報告。約半数のユーザーが拒否を受けている実態を示し、事業者、市民の意識変化を促すために広報活動が重要であることを報告しました。

→ 掲示したポスターに対し質問する参加者に、英語を交えて答える奥澤職員



「選ばれる」とは～ 盲導犬は絶滅危惧種か

発表者: 協会顧問 多和田 悟

過去10年間、日本で盲導犬実働数が減少していることを報告。現状に対して、当事者のニーズに向き合いながら盲導犬の情報を届ける協会の活動を紹介。さらに「育成現場を支えるサポーター、当事者、職員からも選ばれる団体でなくてはならない」と語りました。

→ 盲導犬訓練士歴50年の実績が評価され、IGDFから「永年勤続賞」の表彰を受けた多和田顧問



カンファレンスに合わせ、訓練士へ向けたワークショップが初開催され、協会訓練士も含め30人が参加。GDUKによる訓練講義や実技を通して、その訓練手法を体験しました。帰国後、訓練士たちは早速、今回得たアイデアを協会内で活用して、訓練をさらに発展させる方法を模索しています。

→ 6月23～25日に開催された訓練士向けワークショップの参加者一同。各国の訓練士との交流や意見交換を通じて多くの学びや気づきを得ました



渡航の合間を縫って、オランダとイギリスの盲導犬育成施設の視察も行い、時代に即した訓練や事業運営のあり方を考える貴重な機会となりました。次回は2026年5月に日本でのカンファレンスが予定されており、当協会がホストを務めます。

盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

気負わず自然体に 未来を見据えてやりがいを感じる日々

神奈川訓練センター 繁殖犬飼育ボランティア ● 上原さん一家 ● (神奈川県川崎市)



→ アリスを囲むのは、右から上原佳織さん、三男の涼さん、夫の均さん。散歩などの日常のお世話も佳織さんが担当。涼さんは遊び担当で、一緒にボール遊びやお昼寝をします。留学中の咲耶さんは、テレビ電話でたくさんおしゃべりしてくれます。均さんは忙しいので、お留守番担当です。笑

「アリス、ただいま」。上原さん一家の中心は、繁殖犬のアリス。家族は自然とアリスのもとに集まります。上原さん一家がボランティアを考え始めたきっかけは、「大型犬を飼いたい」という子供たちの希望でした。母・佳織さんは、実家で盲導犬の繁殖引退犬を飼うボランティアをしていた経験があり、家族で相談し、繁殖犬飼育ボランティアに登録。「犬を飼うには覚悟が必要。5人いる子供も上3人が巣立ったので、迎えるならそろそろかなと思って」と語ります。

アリスとの初対面でまず目を引いたのは、大きな体と長い手足。大きな体とは裏腹に「気が小さい。けど人を信頼しきっている」というアリスは、家族以外の人にも穏やかです。寝ている時に夢をみるのか、寝言を言っている姿がとてもかわいいのだとか。「アリスに会いたくて家族の帰宅が早くなりました」と上原



↑ 2024年12月11日に初めての出産。大役を終えて穏やかな母の顔

→ 休日のお出かけは「アリスと一緒に行ける所」。茨城の海に行った時は、最初は怖がっていたアリスも、涼さん、咲耶さんと一緒にバシャバシャ遊んでいました



さん一家の暮らしも変わってきたようです。

繁殖犬の飼育では、特に体調管理が重要です。食事や運動に気を配る必要がありますが、佳織さんは「気負わずやっています」と自然体でアリスに接しています。交配のタイミングに合わせて訓練センターへ足を運ぶことも、あまり負担には感じていないそうです。いつの間にか、出かける先も外食も「アリスと一緒にいける所」になっていました。「これが当たり前」と話す三男・涼さんも、ボランティアとして特別なことをしている意識はなく、家族の一員としてアリスを受け入れています。それでも、アリスの交配のタイ

ミングがなかなかつかめず何度かセンターに通った時は、体調面への心配はもちろんです。無事に子犬を産めるのか不安を感じるこ

ともありました。

「普通に犬を飼っているだけ」と思っていた佳織さんですが、富士ハーネスで初めてアリスが生んだ5頭の子犬たちを見た時に、気づきがありました。「この中の一頭でも盲導犬になるかもしれない、と思ったら、私たちもアリスも大変なことをしているんだな、アリスを大切に育てていかないといけない、と気が引き締められました」。そして、職員から「アリスもここで生まれたんですよ」と聞いたとき、自分の中で何かがつながったように感じたといいます。アリスが大事に育てられてここにいることに感謝の気持ちが湧き、この子犬たちが盲導犬になってもなくても、大事に育てられ、幸せになってほしいと強く感じました。

佳織さんの背中を見ながら「いつか保護されたシェパードを飼ってみたい」と語る涼さん。涼さんの言葉と、心を許しおなかを見せるアリスの姿にうれしさを覚える佳織さんです。

スタートライン Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2025年8月までの共同訓練卒業生

- 各ユーザーの紹介項目
ユーザー名・居住地(盲導犬歴)
盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名
- 犬種記号
LR: ラブラドル・レトリバー
GR: ゴールデン・レトリバー

仙台訓練センター

盲導犬の存在が支えに 何気ない日常の幸せをこれからも

小野さんと盲導犬との出会いは、25年ほど前のこと。当時は白杖を使っていましたが、歩行の際に不安を感じる場面も多々あったといいます。盲導犬のことは知ってはいたものの、なかなか行動に移せずいたところに、知人から「盲導犬と歩いてみてはどうか」との声が。家族や職場に相談すると快く理解が得られ、盲導犬との暮らしが始まりました。

テトラは、小野さんにとって6頭目のパートナーです。今回の共同訓練では、「基本に立ち返ること」をテーマに、お互いに歩きやすいハーネスの持ち方を改めて確認し、犬の体格に合った歩幅で歩くことを意識しました。また、感受性が高く繊細な性格のテトラに合わせて、指示を出す声のトーンを低くしたり、褒めるときも軽く頭をなでる程度に。「十人十色という言葉があるように、犬もそれぞれ個性が違いますし、いろんな個性があります。代替※1にあたって、私自身も気持ちを切り替えてテトラと向き合いました」。テトラは初め少し緊張した様子でした



◀DE※2とは、「グッド」や「ノー」などの声をかけるタイミングにも気を遣っているという小野さん。「そのことがスムーズな反応につながっていると思います」

が、訓練開始から数日で尻尾を上げて楽しそうに歩くようになりました。また、今回の代替は、小野さんにとって大きなチャレンジの機会にもなりました。訓練開始前の4月に初めてスマートフォンを持ち、情報機器の訓練を担当する職員と共に、歩行支援アプリ「Eye Navi (アイナビ)」の活用にも挑戦したのです。共同訓練中は、実際に「Eye Navi」の信号認識機能を使った歩行訓練を実施。近年、ハイブリッド車など走行音が小さい自動車が増え、音を頼りに信号の変化を判断する難しさを感じていましたが、盲導犬と「Eye Navi」を併用することで、より安心感をもって歩けるようになりました。これまではタクシーを使っていた遠方のスーパーへの買い物にも、今ではテトラと一緒に歩いて出かけています。

「安全に通勤できて好きな店に買い物にも行ける。今の生活にとても満足しています」と小野さん。実は、昨年の夏に病気が見つかり、ショックで日常生活や仕事がままならない時期もあり

小野 良丈さん
山形県上市市(6頭目)
テトラ(♂)LR
①2025.5.26～6.6
②内田 晴美さん



↑片道40分ほどの通勤路では小野さんの指示をよく聞き、他の犬に吠えられても動揺することなく淡々と歩き続けるテトラ。「歩いている時も、自宅にいる時も、指示に対する反応が良く、テトラとうまく会話ができています」

ました。当時のパートナーだった盲導犬と散歩や買い物に出かけたり、盲導犬の世話をするうちに少しずつ日常を取り戻していきました。「自分の生活に盲導犬がいて、いつも通り過ごせる幸せに気が付きました」。そして、新たに会ったのがテトラです。「今はお互いに信頼関係を築いているところ。毎日のDE※2など基本を大切にしながら、じっくり時間をかけて向き合っていきます」。何気ない日々の幸せをかみ締めながら、テトラとの今後に向けた決意も聞かせてくれました。

※1 代替：盲導犬の引退により、新たな盲導犬とユニットを組むこと
※2 DE：Dog Educationの略。人とのコミュニケーションの取り方を教える基本の訓練



大友 博樹さん
盛岡市(1頭目)
ユイマー(♂)LR
①2025.5.12～6.6
②佐藤 真希さん

以前は、岩手から横浜まで車を走らせ、気が向けば四国を一周して帰ってくる。そんな生活でしたが、見えなくなってからは、出かけるのはコンビニと銀行くらい。小さな幸せを拾う毎日を不幸だとは思わないが、とにかくつまらない。そんな時にユイマーという大きな幸せがドカンと来ました。盲導犬との日々の生活で幸せをたくさん

拾っています。「幸せとはなるものではなく、感じるものである」そう実感させてくれたユイマーに感謝です



山岸 小百合さん
千葉市(2頭目)
リリア(♀)LR
①2025.6.17～6.30
②山崎 穂積さん

リリアは24kgの小柄な女の子。先代ハイルのような大柄な男の子がくると思っていた私は戸惑うばかり。そんな私にリリアは緊張してあくび連発でした。初対面の印象が悪かったからか、共同訓練中はケージからなかなか出てきてくれないことも。それでも自宅など現地訓練になってからは私を頼ってくれて、その姿にいとおいさを感じました。リーちゃん、今はまだギクシャクした関係性だけど、これから少しずつ仲良くなって趣味の野球観戦や旅行に付き合っ

神奈川訓練センター

3頭目となるヴェスパーと暮らし始めて2か月。安定した歩行と家での落ち着きぶりから、長く一緒にいる気がします。好きな喫茶店に向かってグイグイ進み「行こうよ」と主張するヴェスパーに「今日はストレート・ゴーだよ」と声をかけてなだめ、楽しみつつ関係を築いています。大きくて頼もしいけど甘えん坊で、アムアムおしゃべりする仕草もかわいくてたまらない！今まで関わってくださった方々に感謝しながら二人で楽しく生活していきたいです



落合 真智子さん
横浜市(3頭目)
ヴェスパー(♂)GR
①2025.5.26～6.6
②吉澤 達也さん

亀田 秀耶さん
神奈川県相模原市(2頭目)
ファビオ(♂)GR
①2025.6.16～6.27
②稲田 定博さん



出会った時から、私の足をふみふみ前足でスネをちょんちょんする、ものすごく甘えん坊なファビオ。人の顔をしっかりと見るところもあり、初めは周りが気になってなかなかフードを食べてくれないこともあり。歩行中、不安が募るとすぐ足が速くなったりするので、察して無茶な要求はしないようにしています。先代との経験も活かし、新たな関係性を作りたいです。と、これを書いている間も背後から甘えん坊の視線を感じています

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介し

「盲導犬を待つすべての方の一助に」 ロイヤルホームセンター 30年にわたる支援とこれから



←森ノ宮店の城畑店長(左端)、高井さん(中央)と本社総務部の光瀬さん(右端)。「これからも、お客さまと各店舗の協力を得ながら、支援を続けていきます」

● 募金箱から ● 広がる支援と ● 関心の輪

ペット用品を扱うことから犬好きの方の来店も多く、森ノ宮店ペット用品担当の高井さんは「盲導犬に対する意識が高いお客さまが多いと感じています。中にはパピーウォーカーの方もいらっしゃると聞きました」

54店舗に設置されているラブラドル募金箱の募金累計額は2000万円に迫ります。長年設置

されていることから「お客さまの中には盲導犬の募金箱に愛着をもってくれる方や、来店の度に募金をしてくれる方もいらっしゃいます」。店内に掲示した協会のポスターをきっかけに、スタッフとお客さまの間で盲導犬が話題に上ることも。募金箱から生まれる支援と関心の輪は、30年という年月を経て地域に広がり根付いています。

● 継続して募金を募り ● 情報発信にも注力したい

本社総務部の光瀬さんは、募金活動の手順書を作成するなど、管理改善とさらなる展開に意欲的。「私たち

● 30年途切れることなく ● 協会を支え続けて

ロイヤルホームセンター株式会社は、近畿地方・関東地方などで64店舗を展開する企業です。1980年に大和ハウス工業株式会社のホームセンター事業部として発足し、今年で創業45周年。建築資材からペット用品まで、幅広い商品を取り扱い、地域のみなさんの「住まい」と「暮らし」に寄り添っています。

盲導犬育成への支援の始まりは協会が今のような近代的な訓練センターを構える前の1995年。30年もの間、一度も途切れることなく継続され、協会の支えとなりました。

は募金していただいた方々と協会の橋渡し役です。お預かりした大切な募金を確実に届けられるよう、地道に続けていきます。募金を募るだけではなく、レジ周りのスペースやホームページなどを活用して、盲導犬の情報発信にも協力していきたいです」

協会支援以外にも、多様なお客さまが店舗を利用しやすいよう、全社で取り組んでいます。高井さんは「店舗入り口のスタッフ直通インターホンははじめ、基本的な設備の設置や従業員への周知を行い、ご利用いただけるようにしています」と話します。

今後については「引き続き、募金箱未設置店舗に対する設置協力の促しや、募金にご協力いただいた方へのお礼と募金額の報告を続けていきます。協会への支援を継続することで、盲導犬を待つすべての方の一助になれば幸いです」と光瀬さん。協会事業を伝える情報発信や、ボランティア募集のチラシ設置も検討中とのこと。30年続いたご縁に感謝し、共に盲導犬育成事業の未来を見据えます。



↑募金箱設置から30年の節目を迎え、協会から中山正明代表取締役社長(左)に感謝状を贈呈。「必要とされている方のもとに盲導犬が届けられるよう、微力ながらこれからも支援を継続していきます」とエールを頂きました

生まれました

2025.6/25 誕生

オス3頭
メス2頭
父犬ルバーブ(LR)×
母犬タノ(LR)

2025.7/2 誕生

オス1頭
メス5頭
父犬ワトソン(LR)※2×
母犬ロッタ(LR)

2025.8/18 誕生

メス3頭
父犬コール(LR)※1×
母犬サラ(LR)

2025.8/30 誕生

オス1頭
メス2頭
父犬ハルク(LR)※1×
母犬ノア(LR)

みなさんに 支えられて

6月11日～9月10日

犬種記号
LR/ ラブラドル・レトリバー
GR/ ゴールデン・レトリバー
※1 凍結精液を使用した人工授精
※2 北海道盲導犬協会

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
バイク♂	亀田 秀耶さん	湯澤 雅美さん	2025.6.16
スバル♂	高橋 寛規さん	調整中	2025.7.10
イルミー♀	山上 隆幸さん	鎌倉 重和さん	2025.7.20
ウイ♂	高橋 信行さん	東 晴美さん	2025.7.24
リュウ♂	佐藤 誠矢さん	調整中	2025.8.7
ジンジャー♀	細井 京子さん	調整中	2025.8.17

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
インテル♀	庄司 恵美子さん	小澤 保雄さん	2025.6.14
ブレイン♂	比奈 幸三さん	横山 真理さん	2025.6.16
アナ♀	繁殖引退犬	中島 雅美さん	2025.6.23
ナッピー♂	飯山 リサさん	三吉 信孝さん	2025.6.28
ポール♂	利根川 かおるさん	宮下 綾子さん	2025.7.2
モネ♀	安松 和男さん	鈴木 美枝子さん	2025.7.25
マンサ♀	矢野 裕子さん	松原 克彦さん	2025.7.29
キース♂	田中 雅哲さん	饗庭 尚子さん	2025.7.30
アトム♂	-	山口 君代さん	2025.8.2
トーン♂	齊木 美鈴さん	佐藤 英広さん	2025.8.5
エリン♀	三宅 保子さん	上廣 耕治さん	2025.8.11
オリン♂	上杉 健一さん	高橋 雄司さん	2025.8.14
モカ♀	廣崎 順子さん	北嶋 信幸さん	2025.8.18
フローラ♀	佐藤 夏江さん	上田 潤司さん	2025.8.25
ハイル♂	山岸 小百合さん	若井 むつ美さん	2025.8.27

盲導犬育成状況

合計頭数…690頭(2025年10月1日現在)

委託前パピー	6頭	繁殖犬	43頭
パピー	94頭	PR犬	12頭
訓練犬	68頭	引退犬	188頭
盲導犬	215頭	繁殖引退犬	64頭

委託しました

父犬マルセル(LR)※1×母犬オプティ(LR)	チェロ♂	河内 淳也さん	父犬アンバー(LR)×母犬コニイ(LR)	フロリス♂	高橋 竜児さん
父犬エデン(GR)×母犬フェアリー(GR)	シーザー♂	井上 隼登さん	父犬ワトソン(LR)※2×母犬ロッタ(LR)	フレッド♂	小松原 典子さん
ダリア♀	クレール♀	島村 一秋さん	グルー♂	フィルマ♀	竹原 早苗さん
デミ♀	カッチ♂	近藤 おりほさん	グレア♀	フィズ♂	木下 裕之さん
ドルフ♂	コア♂	和田 隆さん	グレイス♀	フェルモ♂	山崎 穂積さん
ディディ♂	クーノ♂	中村 豊さん	グリマー♀	フーシャ♀	赤岡 明さん
ダイズ♀	セラ♀	森永 和加子さん	父犬ルバーブ(LR)×母犬タノ(LR)	ファブ♂	大熊 真理さん
父犬ヴァルニー(GR)×母犬イルア(GR)	エスター♀	川端 香織さん	父犬ルバーブ(LR)×母犬ヤワラ(LR)※2	フィー♀	櫻木 暢子さん
エバー♂	エリン♀	竹内 利春さん	イセル♂	ファルコ♂	山崎 茜さん
エン♀	エリオ♂	川喜田 一広さん	父犬ルバーブ(LR)×母犬ヤワラ(LR)※2	ヒューゴ♂	倉田 冬彦さん
エリオ♂	エルモ♂	木崎 久美さん	ホルス♂	ハディ♂	湯浅 久美子さん
アイネ♀	イーサン♂	小林 由紀さん	ハピナ♀	ハピナ♀	水野 智秋さん
エテ♂	エテ♂	浦中 慶子さん	ハナ♀	ハナ♀	山本 穰さん

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば

みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します

編集室より

慶應義塾大学病院内に「ロービジョンケア・ハブ」を開設してから約1年で、大学病院の患者さんと院外の方を合わせて、500件近い問い合わせや相談がありました。相談を終え、「生活の工夫や福祉サービスの説明を詳細に聞いた」「見やすくなる機器類をじっくり体験できた」と笑顔で帰るみなさんの姿を見るとうれしくなります。見えにくくなり不安を抱えている時期に、このような眼科と連携した相談室の存在が求められていることを実感しています。全国の眼科に広がると良いと思います。

『盲導犬くらぶ』の感想やご意見をお待ちしております。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net

●イベント情報はホームページやSNS上に掲載しております。



↑ ホームページ



↑ X

スーパーマーケット「マルエツ」では、1993年から全店舗（307店）に募金箱を設置しています。お客さまが募金箱をとても大切に思っている様子をご紹介します。千葉県松戸市の小金原店では、募金箱のわんちゃんをたくさんなでてもらって鼻が白くなるのですが、スタッフがときどき黒く塗り直してリフレッシュ、元気に「お仕事」しています。東京都葛飾区の金町店では、お客さまからわんちゃん用に手作りのケープを頂きました（写真）。

募金箱を通じたお客さまとの交流も大切にしていきたいと思えます。

株式会社マルエツより



→「わんちゃんにぴったりのすてきなケープに、やさしい気持ちを感じます」

お知らせ

当協会で行う業務の公正かつ適正な執行、品質向上およびトラブル防止を目的として、電話の通話録音を行っています。当協会に着信のあった電話通話と、当協会から発信した電話通話が対象です。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



無理なく、続けられる

ナチュラリープラス®

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラリープラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 0120-989-329 FAX 03-6679-2494 URL www.naturally-plus.com



Know today, Power tomorrow

株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
http://www.intage.co.jp/



キューモニター募集
https://www.cue-monitor.jp/

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています

わかさ生活